

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

鎌ヶ谷市まち・ひと・しごと創生推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

千葉県鎌ヶ谷市

3 地域再生計画の区域

千葉県鎌ヶ谷市の全域

4 地域再生計画の目標

本市の人口は、1960年から1980年にかけて大幅に増加し、その後も増加傾向が続き、2010年は約10万8千人となった。2018年には約11万人となっている。2019年に実施した「鎌ヶ谷市総合基本計画基礎調査」による独自推計によれば、2023年の約11万2百人をピークに減少傾向に転じ、2045年には約10万3千人程度まで減少することが予測されている。

年齢3区分別人口の推移については、生産年齢人口（15～64歳）は、2000年の約7万5千人をピークに減少に転じ、2010年には約7万人まで減少した。市の独自推計では、その後も減少傾向が続き、2045年には約5万5千人程度まで減少することが予測されている。また、年少人口（14歳以下）は、1980年以降減少傾向が続き、2010年には約1万4千人まで減少した。市の独自推計では、その後減少傾向が続き、2045年には、約1万7百人まで減少すると予測されている。さらに、老年人口（65歳以上）は、1980年以降増加を続け、2010年には約2万4千人まで増加した。市の独自推計では、その後も一貫して増加傾向にあり、2045年には、約3万7千人程度まで増加する見込みとなっており、今後、人口減少・少子高齢化に対し、何ら対策を講じなければ、2060年には、36.3%の高齢化率になることが見込まれている。

自然増減については、出生数が2000年の931人に対して2018年では760人と近年減少傾向にある一方、死亡数は2000年の507人以降増加傾向にあり、2018年に

は1,025人となり265人の自然減となっている。また、合計特殊出生率は県平均とほぼ同水準で推移しているが、2013年の1.33に対し、2018年は1.29と減少傾向にある。

社会増減については、転出数は、1996年の6,455人以降、2012年の4,793人まで減少傾向が続いたが、その後増加傾向に転じ、2018年には5,831人まで増加している。また、転入数は、概ね5～6千人の水準で推移したが、2013年には4,783人と初めて5千人を下回った後、2014年に5,097人と増加傾向に転じた後、2018年には6,222人となり391人の社会増となっている。

現状では自然減を上回る社会増となっているものの、今後は出生数の減少及び死亡数の増加がより加速することにより人口減少に転じることが見込まれている。今後、人口減少や少子高齢化が進行すれば、社会保障費の増加や生産年齢人口の減少による地域経済社会の縮小などといった課題が生じる。

また、人口移動を年齢階級別にみたときに、高校や大学等への進学等に伴う10歳代後半と、30歳代の子育て世代において転入超過の傾向があり、女性においては、20～30歳代の子育て世代の転入が多い傾向にある。一方で、市が実施したアンケートの結果では、子育て環境充実への市民のニーズが高く、子育て環境における課題があることが伺える。このまま放置すると、交通や日常生活の利便性の観点から、子育て世代の若者が他市へ転出する可能性が高いことから、雇用・就労環境や教育環境の充実が定住に向けた課題となっている。

以上の課題に対応するため、以下の基本目標を掲げ、効果的な施策を早期に実施していく。

- ・基本目標1 人々が交流・定着する、魅力あふれるまちづくり
- ・基本目標2 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえるまちづくり
- ・基本目標3 働きたいという希望をかなえるまちづくり
- ・基本目標4 あらゆる世代の誰もが安心して暮らすことのできる、支え合いつながり合う地域づくり

【数値目標】

5-2の ①に掲げ る事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2024年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	社会増加数(転入者数-転出者数)	-98人	1,000人	基本目標1
イ	合計特殊出生率	1.33	1.60	基本目標2
ウ	雇用・就労人数(累計)	-	1,275人 (2020~2024)	基本目標3
エ	自主防災活動実施回数 自治会加入世帯数	63回 29,308世帯	120回 29,800世帯	基本目標4

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

- まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例(内閣府)：【A2007】

① 事業の名称

鎌ヶ谷市まち・ひと・しごと創生推進事業

- ア 人々が交流・定着する、魅力あふれるまちづくり事業
- イ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえるまちづくり事業
- ウ 働きたいという希望をかなえるまちづくり事業
- エ あらゆる世代の誰もが安心して暮らすことのできる、支え合いつながり合う地域づくり事業

② 事業の内容

- ア 人々が交流・定着する、魅力あふれるまちづくり事業

人々が交流・定着し、活気あるまちを継続していくため、まちの魅力を高め、広く発信する事業

【具体的な取組】

- ・新鎌ヶ谷駅、初富駅、北初富駅周辺整備事業
(広域交流拠点整備事業・都市軸形成促進事業・近隣商業拠点整備事業)
- ・公園整備及び遊具更新事業
(街区公園整備事業・公園施設長寿命化事業)
- ・芸術文化創出事業
(舞台芸術等観賞事業・市民参加型創造事業)
- ・市民参加型スポーツイベント等実施事業
(北海道日本ハムファイターズとの連携強化事業・市民参加型スポーツイベント事業) 等

イ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえるまちづくり事業

鎌ヶ谷市の未来を担う若い世代の結婚・出産・子育てにおける希望を実現し、出生率を向上させていくため、切れ目のない支援を展開するとともに、地域全体で生み育てやすい環境づくりに資する事業

【具体的な取組】

- ・保育園施設リニューアル事業 (トイレ洋式化など)
- ・子ども医療費助成事業 (0歳から中学校3年生まで)
- ・全小中学校のコンピュータ整備 (リニューアル) 事業
- ・児童生徒安全パトロール事業 等

ウ 働きたいという希望をかなえるまちづくり事業

鎌ヶ谷市で働き(続け)たいと考える人の希望を実現するため、しごとを創り出すとともに、働き続けることのできる仕事の間を整備・支援する事業

【具体的な取組】

- ・企業誘致基本計画推進事業
- ・ベンチャービジネス等創業支援事業
(コミュニティ・ベンチャー事業補助金活用促進事業、創業事業者支援事業)

- ・農作物ブランド化等農業経営基盤の強化・推進事業 等

エ あらゆる世代の誰もが安心して暮らすことのできる、支え合いつながり合う地域づくり事業

変化するニーズに対し、地域の連携により対応し、子どもからお年寄りまで、あらゆる世代の誰もが安心して暮らすことのできる地域社会を創出する事業

【具体的な取組】

- ・高齢者生きがいづくり推進事業
(老人憩いの家整備事業、老人クラブ支援事業)
- ・コミュニティバス運行助成事業
- ・青少年の社会参加及び体験活動推進事業
(元気っこゼミナール事業、北海道ファームステイ事業)
- ・安全で快適な道路網整備事業
(市道整備事業、交差点改良事業、都市計画道路整備事業)
- ・安心して暮らせる治水対策事業
(準用河川整備事業、地域排水整備事業、雨水貯留池整備事業)
- ・小中学校トイレ洋式化・公共施設の長寿命化事業
(小中学校トイレ整備事業、公共施設等整備事業)
- ・夜間防犯パトロール事業 等

※詳細は鎌ヶ谷市まち・ひと・しごと創生総合戦略のとおり。

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

300,000千円（2020年度～2024年度）

⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

毎年度1回9月に外部有識者による効果検証を行い、その結果に基づき、

必要な改善を事業に反映する。検証結果は、速やかに鎌ヶ谷市ホームページで公表する。

⑥ 事業実施期間

地域再生計画の認定の日から 2025 年 3 月 31 日まで

6 計画期間

地域再生計画の認定の日から 2025 年 3 月 31 日まで